Pharmarise HOLDINGS
2025年 10月号 月刊
Pharmacy Press
薬局新聞
10 2025 October
疾病

心不全について知ろう

心不全とは

心不全とは“心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気”と定義されています。ステージA～Dで表され、ステージA、Bは心不全予備軍、発症するとC、Dと進みます。原因や自覚症状は人によって様々です。

ステージA	心臓に病気はないが、高血圧や糖尿病など心不全のリスク因子がある状態
ステージB	心臓に何らかの病気がある状態(きっかけがあれば心不全を発症する状態)
ステージC	心不全を発症した状態
ステージD	心不全の悪化と改善を繰り返している状態

原因

心不全の原因は大きく分けて３つあります。

①心臓そのものの病気（不整脈、狭心症、心筋梗塞、弁膜症、心房細動など）
②他の病気による心臓への負担（高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満など）
③抗がん剤などの薬の影響

これらの病気がある方は、治療の中断や病状の悪化によって心不全を発症するリスクがあります。現在治療中の人も、病気の管理と定期的な受診を続けることが大切です。

症状

主な症状は、足のむくみ、息切れ、疲労感、咳、食欲不振などです。

「坂道を歩くとゼーゼーする」「少し歩いただけで息切れがする」「重い荷物を持って歩けなくなった」などは心不全の初期症状かもしれません。“年のせい”と思わず、これらの症状が急激に現れた場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

診断

心不全は心エコーや血液検査などで診断されます。心エコーでは心臓の大きさや動き、血液を送り出す力を調べます。血液検査では「BNP」もしくは「NT-pro BNP」という指標で心機能を評価します。

BNP	≦ 18.4pg/mL
NT-proBNP	≦ 55pg/mL

治療と経過

最近では、心臓の負担を減らす薬を早いうちから始めることで予後が改善されると言われていますので症状がない段階から治療を始める人もいます。

心不全は症状に応じて複数の薬を組み合わせて治療をしていきます。薬の数が増えて心配になるかもしれませんが、心臓の働きをしっかりサポートするため指示通りに服薬しましょう。ご自身の薬について気になる方は薬剤師にお尋ねください。

心不全は一度悪化してしまうと、それまでの状態に戻すのが難しい病気です。入院治療した後も１年以内の再入院率は60％といわれています。治療中の人は入院にならないよう体調を管理していくことが大切です。

例えば、3日間で2kg以上の体重増加や安静時の息切れなどの体調変化は、悪化のサインかもしれません。血圧・体重の管理や、浮腫み・息切れの程度を確認することで悪化の兆候を見逃さないようにしましょう。

【参考文献】
日本心臓財団HP https://www.jhf.or.jp/
日本心不全学会HP https://www.jhfs.or.jp/
心不全診療ガイドライン2025年改訂版